

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「学会連携」

研究分担者 大園 誠一郎 国立大学法人 浜松医科大学 教授

研究要旨：思春期、若年成人(AYA)世代がん患者に必要な行政施策や治療開発は立ち後れており、本班研究では適切ながん対策の政策提言ならびにガイドラインの作成を目指している。そこで、本研究遂行のため、関係学会・団体と連携してさまざまな観点から総合的に検証を行うことが求められ、日本癌治療学会の立場から連携を図った。

A．研究目的

思春期、若年成人(AYA)世代がん患者に必要な行政施策や治療開発は立ち後れており、適切ながん対策の政策提言ならびにガイドラインの作成を目指して本班研究が開始された。しかし、AYA世代がん医療に関して実態把握および意識調査などの研究の遂行には、日本小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会に参加している各学会の理解と協力が必要であり、特にがん治療に関する横断的学術団体である日本癌治療学会の立場から連携を強固なものとするための活動を行う。

B．研究方法

本研究の班会議ならびにメール連絡で得られたAYA世代がん医療に関する実態把握および意識調査の方法ならびに成果について、日本癌治療学会理事会ならびに関連学会連絡委員会において適時報告を行い、連携を図る。

また、医師アンケート調査の実施に際しては、関連学会連絡委員会に参加の各学会・研究会と連携を図る。

C．研究結果

本年度に行われた日本癌治療学会理事会（平成28年4月8日、同年7月8日、および同年10月19日）、日本癌治療学会代議員総会（同年10月19日）において、本班研究内容について進捗状況ならびに研究協力依頼を行った。

また、医師アンケートの実施に際しては、日本癌治療学会・関連学会連絡委員会に参加の各学会・研究会（計31団体）に対して協力要請を行い、個別の問い合わせにも応じた。

すでに理事会ならびに関連学会連絡委員会においては十分な理解が得られており、平成29年開催の第55回日本癌治療学会学術集会において、シンポジウム「AYA世代のがん治療と支援（仮題）」を企画中である。

D．考察

日本癌治療学会は、会員数17,000名を超える本邦最大の領域・職種横断的がん関連学術団体であり、

本班研究遂行に連携を保つことは非常に有用である。今後とも、本学会との連携を密に保ちつつ、情報提供と協力要請を継続することが肝要である。

また、すでに内定している第55回日本癌治療学会学術集会におけるシンポジウム「AYA世代のがん治療と支援（仮題）」において、本研究班での研究内容の報告を行い、政策提言や診療ガイドライン作成に通じるアピールを行うことが期待される。

E．結論

本班研究遂行のために日本癌治療学会との連携は重要である。

G．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし